

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

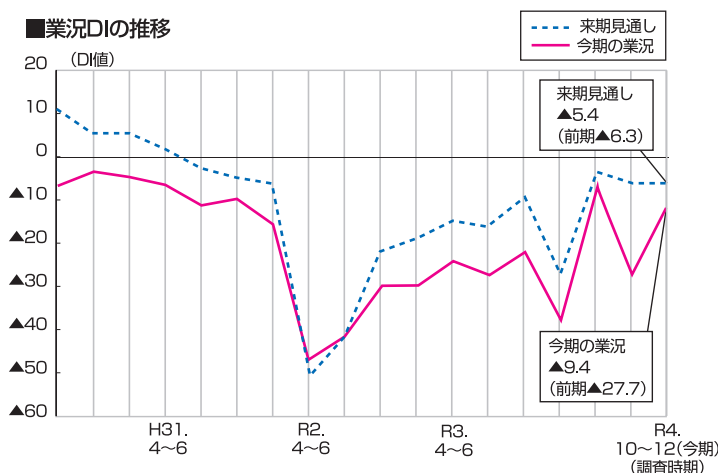
DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和4年10~12月
回答企業数 153社

■業況DIの推移



今期業況は緩やかな改善の動きがみられるも、原材料・物価高の影響懸念がつづく

【今期(令和4年10~12月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲9・4
(前期比プラス18・3ポイント)とな
り、前期は新型コロナウイルス第7波の影響で
悪化に転じていたが、外出機会の増加
に伴う個人消費拡大等に牽引され、業
況は緩やかな改善傾向がみられた。

【来期(令和5年1~3月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲5・4
(前期時の来期見通し(▲6・3)
と比較してプラス0・9ポイント)
となり、改善が期待される。一方で
製造・建設業では依然として仕入コ
ストの高騰等が懸念されている。

■産業別DI値表

		前期 [R4.7~9] (A)	今期 [R4.10~12] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R5.1~3]	
業況	全産業平均	▲27.7	▲9.4	18.3	▲5.4	→
	製造業	▲37.5	▲8.8	28.7	▲22.9	↘
	建設業	▲25.0	▲7.7	17.3	▲16.0	↘
	卸売業	▲15.0	▲25.0	▲10.0	4.0	→
	小売業	▲35.7	▲13.3	22.4	▲3.6	→
	サービス業	▲20.0	▲2.9	17.1	11.8	↗
売上額	全産業平均	▲14.6	▲6.0	8.6	6.0	→
	製造業	▲6.3	▲5.9	0.4	2.9	→
	建設業	▲25.0	▲14.8	10.2	▲18.5	↘
	卸売業	0.0	▲4.0	▲4.0	16.7	↗
	小売業	▲42.9	26.7	69.6	13.3	↗
	サービス業	0.0	17.1	17.1	14.7	↗
資金繰り	全産業平均	▲20.6	▲12.1	8.5	▲9.5	→
	製造業	▲25.0	▲17.6	7.4	▲17.6	↘
	建設業	▲30.0	▲7.4	22.6	▲14.8	↘
	卸売業	▲5.3	▲20.0	▲14.7	▲8.0	→
	小売業	▲30.8	▲17.9	12.9	▲3.6	→
	サービス業	▲10.3	0.0	10.3	▲2.9	→
採算	全産業平均	▲32.6	▲12.6	20.0	▲12.7	↘
	製造業	▲31.3	▲11.8	19.5	▲25.7	↘
	建設業	▲40.0	▲33.3	6.7	▲22.2	↘
	卸売業	▲40.0	▲28.0	12.0	▲12.0	↘
	小売業	▲37.0	0.0	37.0	▲13.3	↘
	サービス業	▲20.0	▲2.9	17.1	9.1	→

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲6・0
(前期比プラス8・6ポイント)
となり、特に小売業では前期からプ
ラス69・6ポイントと大きく回復し
た。企業からは継続的な個人消費拡
大を期待する声が多く寄せられた。

全産業の資金繰りDI値は、▲
12・1(前期比プラス8・5ポイン
ト)となり、特に建設業と小売業で
改善がみられた。

全産業の採算DI値は、▲12・6
(前期比プラス20・0ポイント)と
なり、全業種で改善がみられた。特
に小売業は前期からプラス37・0ポ
イントと大きく回復した。

【回答企業のコメント】
・エネルギー・原材料価格の高止まりや仕入コスト上昇に伴う製品価格への転嫁交渉が課題。(製造)
・従業員不足や資材の確保が難しいことから、納期の管理に苦労している。(建設)
・外出機会が増え、個人消費が改善傾向にあることを感じる一方で、製品価格の値上げに対する影響が懸念される。景気回復の動きは出てきているが、引き続き新型コロナウイルスの感染状況に注意が必要。(小売)